

事業の基礎情報

実施主体	葉山町
事業実施地域	町内全域
共創の類型	官民共創 ・ 他分野共創
他分野共創の類型	まちづくり・買い物・医療・交通
共創パートナー	葉山町（自治体）、JR逗子駅構内タクシー組合、アプリ開発事業者（交通）、葉山町商工会（まちづくり）、株式会社スズキヤ、相鉄ローゼン株式会社、株式会社京急ストア（買い物）、一般社団法人逗葉医師会（医療）
運行形態	AIデマンド型乗合タクシー
運行主体	JR逗子駅構内タクシー組合、アプリ開発事業者

取組の概要

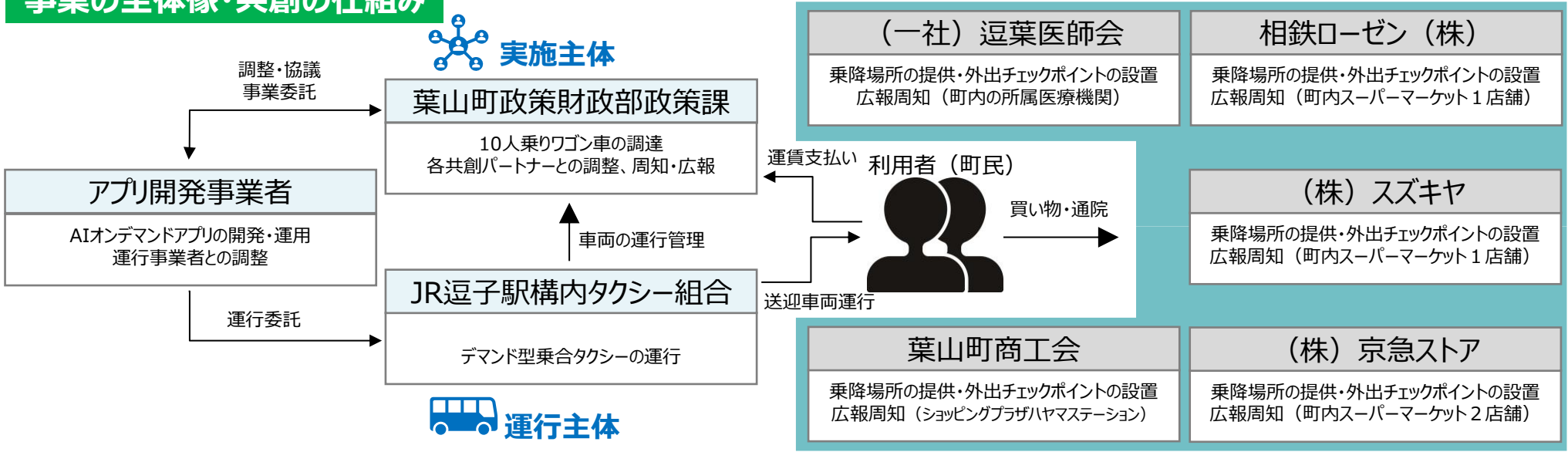
（現状の地域課題と事業目的）

- 鉄道駅が無く、路線バスが公共交通の中心となっている葉山町では、路線バス網がJR逗子駅を起終点とし幹線道路沿いを中心に町内に広がっている。しかし、バス停から300m以上離れた地域、自宅からバス停まで起伏がある交通不便地域が多く存在しており、高齢者をはじめとする移動困難者を中心に、町内における買い物・通院などの日常生活上での移動に課題がある。
- 住民の移動の足を確保するため、具体的かつ持続可能な対応策が必要である。

（事業の概要）

- AIにより効率的なルートを判定するAIデマンド型乗合タクシーを、山の上にある造成団地などの交通不便地域や町内への直通路線バスがない地域と、通院・買い物・地域活動等のスポットを結ぶかたちで運行する。
- 実証運行では町内をいくつかの区域に分割して順次運行し、利用状況の分析と利用者へのアンケート調査によって、各地域のニーズを把握する。

事業の全体像・共創の仕組み



取組の詳細

(地域の関係者との連携・協働)

実施主体の葉山町（政策財政部政策課）は、運行車両の調達、各共創パートナーとの調整、周知・広報など、本事業の中心としての役割を担う。アプリ開発事業者はAIオンデマンドアプリの開発・運用、運行主体事業者との調整を行う。JR逗子駅構内タクシー組合は、葉山町が調達した車両を用いて、AIデマンド型乗合タクシーの運行を行う。（運行は加盟する4社のうち1社が受託）逗葉医師会ほか4者の共創パートナーは利用者が安全に乗降できる場所の提供を行い、アプリと連携した外出チェックポイントの設置、広報面での協力など本事業の利用者増加に努める。

(実証事業により見込まれる効果)

利用者（町民）は、町内へのアクセスが向上することにより、移動の足が確保され、外出促進に繋がることで高齢者にとってはフレイル予防の一助となる。加えて、町内会館等の集会所も乗降スポットへ設定することで、地域コミュニティの活性化にも資することが見込まれる。アプリと連携した外出チェックポイントの活用では、地域住民へスマホ説明も実施することで、デジタルデバインド対策の一助となる。また、本プラットフォームに参画する地域内事業者にとっては、町民が立ち寄ることによって地域内経済の活性化が見込まれる。

取組の詳細

(事業実施手順・スケジュール)

実施時期	内容
6月	葉山町地域公共交通会議において詳細決定
6月	第2回定例会において補正予算計上
7月	車両調達契約締結・車両納入
8月～1月	実証運行期間(車両納入が間に合わない場合は、運行事業者の車両を使用)
2月	実証運行の検証結果とりまとめ・実績報告

(補助事業実施後の予定)

補助事業によって把握した各地域ごとのニーズに応じて、令和7年度以降は車両を複数調達し、通年での事業実施を行い、通年運行による更なるニーズ把握を実施し、それに基づき、本格運行を行う地域を決定する。

資金面については、受益者負担による運賃徴収の他にも、広告枠の販売を行うなどの他の収入策を講じることで、利用客数に左右されない安定的な収入を確保し、取組の持続化を図り、本格運行に繋げていく。